



市役所新庁舎  
しゅん工式(除幕)



ひな市  
大 lantern ひな



シヨンシヨン  
まつり



信州なかの  
バラまつり

## 中野市この一年

2018年も残りわずか。  
皆さんはどんな一年でしたか。  
ここでは「広報なかの」で紹介した話  
題を中心に、今年の中野市を振り返り  
ます。



信州なかの音楽祭  
ミュージッククラフトフェア



千曲川・高社山  
SEA TO SUMMIT

6月	5月	4月	3月	2月	1月
28日 中心市街地に宿泊施設を誘致する基本協定締結式 24日 総合技術大会 16日 高社小学校予定地環境整備 3日 斑尾ふるさと祭り	30日 新りんごっこ開所式 26日～6月10日 信州なかのバラまつり 20日 カチューシャふるさとマラソン大会	22日 中野市議会議員選挙(無投票) 6日 新規就職者激励大会	31日～4月1日 中野ひな市 27日 市名・通称名を考えるシンポジウム 22日 市政策研究所調査研究報告会 21日 「仙台フィルハーモニー管弦楽団コンサート」	25日 生涯学習市民のつどい 18日 綱引き大会 13日 市役所新庁舎完全開庁 5日 市役所新庁舎部分開庁	28日 市役所新庁舎しゅん工式 27日 優秀賞入選曲発表会 20日 中山晋平記念音楽賞 7日 羽生善治さん講演会 2日 新春走り初め大会
12月	11月	10月	9月	8月	7月
24日 冬コンクリスマスパティー(消防団員婚活支援)	20日 子ども議会 16日 差別をなくす市民集会 12日 市役所リンゴの木寄贈式 10日～11日 中野えびす講 4日 ・もみじ祭り ・中野市駅伝大会	20日～21日 信州中野おごっこそフェア 14日～11月4日 信州なかの音楽祭 13日 ・健康づくりフェスティバル ・ドキドキハロウィン ・「THE☆若者まちなか音楽会」 4日 信州なかのフェアin横浜 6日 信州なかの巡りEYEウォーク	28日 豊田中学校正門しゅん工式 2日 防災フェア	25日 信州なかのフェア&ナイター 11日 高社山フェスティバル 5日 長野県知事選挙	28日～8月6日 中学生海外留学研修 28日 中野シヨンシヨンまつり 14日～15日 中野祇園祭 11日 北部地区4小学校合同授業



中野市地域おこし協力隊がゆく!

# 信州ながの日和

File: 8



養鶏にチャレンジして、自給率の高い暮らし始めませんか?

今月の協力隊員 中村 栄介 隊員  
問 農政課 ☎ 22-2111 (内線 250)

## 養鶏のある暮らし

中野市に来てから北信州鶏加工所で活動する日々が続く、ライフスタイルが変化しました。特に驚くのは、食費がかからないことです。

朝 1 時間で鶏の解体や 200 個の卵の収穫を済ませ、畑の野菜などの手入れと収穫をする毎日。今の時期の畑では、大根や白菜、玉ねぎ、ニンニクが収穫できます。鶏肉と卵も手に入るの、食材には困らない生活が続いています。

鶏肉は味がさっぱりしているので、飽きません。レバニラ炒めや鳥の丸焼きなどのいろいろな料理にもチャレンジできます。

養鶏の魅力を感じた人、養鶏にチャレンジしませんか。いつでもお待ちしております。



1



2



3

- 1\_ なんだ屋の隣にある畑で野菜を収穫。自給自足の生活です
- 2\_ 里山で採れる天然ナメコとシメジ。卵も鶏肉もあります!
- 3\_ ダッチオーブンで作った黄金シャモの丸焼き



## 池田市長の vol.59 わくわくレポート

### 地域人材の育成

2018 年も師走を迎え、時の流れの速さを感じる今日この頃である。さて、住みよさで選ばれるまちを目指して、中野市はこれまで種々の施策に取り組んできたが、子育て環境の充実、地域の魅力にもつながり、住み良さを実感する重要な項目であることは間違いない。将来を担う子供たちを健やかに育てることのできる環境は、どの地域でも重要であろう。

今、人口減少社会の中で、地域においての人材不足が進んでいる。必要な人材を確保し、充実した機能を維持していくことは、どのような団体においても、また地域においても課題となってきた。

先日、とある会議で、人口減少時代は変化への対応という意味で、新たな時代への扉が開かれる社会発展のチャンスの時だ、といった話を聞いた。その中で「人間はいつから人口になったのか?」とい



11月20日に開催した子ども議会。子供たちが市の未来を考えた。意見を述べてくれました。

た話題が語られた。人口はツールとして人をモノに近い取り扱いで使われる言葉の響きがある。しかし、対象は心もあり個性もある「人間」である。いったいつから人口と言われたのか。重商主義、産業革命時代、人は労働力として機械と同等に扱われ、資源の一つに組み込まれ人間は人口と言われるようになった、といったような話であった。

翻って、人口増加の時代から減少時代への移行は「人間」を必要とする社会への変化を示唆していると思える。個性豊かな、そして故郷に愛着を持ち、将来に向かって地域を支えてくれる人を育てるためにも、地域人材を育成することが、地域の将来を考える上で、重要な政策課題である。